

本・図書との関わり

「高校生・大学生の頃を振り返って」

高濱 祥子（大学 准教授）

皆さんは、図書館にはどれくらい行きますか？本（書籍）を手に入る機会はどうですか？私自身が高校生の頃、大学生の頃をそれぞれ思い出してみたいと思います。

通っていた小・中学校が読書習慣の確立と図書館整備に特に力を入れていたこともあり、高校生になる頃には、国語の授業の文学史に出てくる本や名作といわれる本は、ほとんど読み終わっていました。もちろん、内容は理解できなかったものもあれば、内容は理解できずに文字だけを読んだものもありました。高校生の私としては、「読み終えていく」と認識して、文学史に出てくる本や名作といわれる本を読み返すということはしていませんでした。その一方で、絵本や童話を繰り返し読んで、（高校生より）子どもの頃と同じように感じること、もはや同じように感じられなくなっていること、そして新しく気づくことができるようになったことの違いを楽しんでいました。また、エッセイをたくさん読んで、多様な人々の多様な考えに触れる機会をもつよう心がけていたように思います。高校卒業後は、大学で心理学を学ぼうと考え、よくわからないながらも心理学に関する本を読んでみたりもしました（大学入学後に、同じ心理学に関する本を読んだという同級生先輩、後輩に多く出会いました）。小・中学校の頃と比較すると、高校3年間の読書量は驚くほど少なかったと思います。

その後、大学生の頃は、本を読む機会そのものは高校生の頃と比べて飛躍的に多くなりました。ふらっと図書館に立ち寄るのではなく、目的をもって図書館を活用するようにになりました。目的の大部

分は授業です。専門書を読んで理解を深めたり、レポートや卒業論文を書くためや、発表形式の授業のレジュメをまとめるためにキーワードとなる用語が掲載されている書籍で確認したり…。1、2年生の時は課題・宿題のために本を借りることが多かったです。3、4年生の時は大学院受験に備えて、図書館で本を借りるだけでなく、図書館で勉強する機会が増えていったように思います。また、大学1年生の時のある授業の先生が、大学生なら哲学書を読むべきだと仰っていましたので、哲学書は（理解できなくても）かなり読みました。その他、写真の多い本、美術作品の解説書、舞台芸術や音楽の歴史に関する本を読んだ。気分転換をしていました。国内外の様々な地域の生活習慣、特に食文化について本を読んで知るだけでなく、それぞれの地域の友人と一緒に料理をして、実際に食べてみることも貴重な経験だったと思います。

それから時間が流れた今、本や視聴覚教材に親しむにあたって、文化を守ること、文化の担い手を守ること・育成することについて考える機会が増えています。私なりに考えた結果、図書館を活用することもありますが、本はできる範囲で購入するようにしています。視聴覚教材についても同じです。図書館を活用したり、DVDを購入したりすることもあります。が、なるべく映画館に行くように心がけています。仕事では、心理学に関する教科書に該当する本を読み比べることが多いです。本のタイトルだけでは同じようなことが書かれているように感じても、実際に読み比べてみると著者の価値観の違いを認識することがあります。趣味では、エッセイを読んだり、映画、オペラやバレエのライブビューイングを観に映画館に行ったりしています。読書や図書館の活用が習慣となっているかどうかは、人それぞれだと思っています。皆さん自身のペースで、本や図書館に親しんでいただければと思います。

また読みたくなる本

渡邊 理央（高校 保健体育科）

私は中学校に入学するまでは本を読むことが苦手でした。じつとしていられない性格だったので、本とは無縁の小学生時代を送っていました。こんな本と無縁そうな男にも、好きな本が1冊あります。

皆さんはサン・テグジュペリ著『星の王子さま』という本を読んだことはありますか？この本を私は何回も読み返しています。この本は小学五年生の時に本が大好きな祖母から「児童文学にしては面白いよ」と言われ、誕生日プレゼントで貰いました。小学生時代は読んでみようと思いませんでしたが、中学に進学し最初の夏休み、本棚から『星の王子さま』をふと手に取りました。せっかく祖母から貰ったものだからこの本で読書感想文を書こうと思い書き始めました。しかし、中学生の頃の私は本の内容が理解出来ず諦めた。

なぜ感想文を書くことを諦めたのか。それはこの本が不思議な書き出しから始まるのが原因でした。「この本はある大人に捧げた。子供のみなさんは許してほしい」と。初めて読んだ時は全く意味が分かりませんでした。中学生なりに色々考えてみたのですがさっぱり。自分が理解出来ていないことにモヤモヤしながら高校生、大学生と、歳を重ねながら何度も本を読み返しているうちに自分の中でこの本に対する様々な解釈が浮かんできました。

この本は歳を重ねながら読み返すと、その時読んでいた自分の年齢や心の状態、身の回りの環境によって、書いてある内容を違う意味で解釈していると気がつきました。「こんな素敵な本だとは思わなかった！」と感じたり、「何にも響いてこないな」と感じたり。中学で友人関係に困っている時、高校

〈テーマ展示③〉ハリー・ポッターの世界ようこそ

ハリー・ポッターシリーズの第1作『ハリー・ポッターと賢者の石』が日本で発売されて今年で20年です。それを記念して、シリーズ全作品を展示しました。またハリー・ポッターシリーズから派生した作品も多く、それらと一緒に並べました。机いっぱい広げたポップアップ絵本を、生徒や学生はじっくり見ていました。



〈参加型企画〉なりきりハリー・ポッター

ハリー・ポッターの衣装を着て、ホグワーツ魔法魔術学校を背景に写真撮影できる企画です。始めは恥ずかしがっていた参加者も、衣装を着ると素敵なポーズをとっていました。撮った写真は図書館員がすぐに現像、手作りラッピングをしてプレゼントしました。生徒や学生だけでなく教職員も参加し、大変盛り上がりしました。



図書館フェア2019

7月5日～11日に図書館フェアを開催しました。毎年恒例の七夕飾りや新着本展示の他に、テーマ展示や参加型企画などの催し物を用意しました。たくさんの生徒・学生が来館し、いつもと違う図書館を楽しんでくれました。



〈テーマ展示①〉平成をふりかえる



「平成」を掲げた小淵さんが入口のショーケースで来館者をお出迎え。たまごっちやナタデココなど平成に流行ったもの、話題のもの、それに関連する図書を展示しました。図書館員も懐かしいものを見ながら、当時の思い出話で盛り上がりしました。

〈テーマ展示②〉やなせたかし生誕100周年

アンパンマンの原作者やなせたかしを特集しました。やなせたかしの生い立ちや、戦争を経験したからこそ生まれたアンパンマンの秘話などを紹介しました。他にも、やなせたかしが手掛けた全国のキャラクターや作詞した歌に関する資料も展示しました。

